

DTM班中間報告書

—B3—

田中良樹 安田弘樹 吉本裕貴

—B2—

青木雅典 稲垣和真 河田涼太郎

小村漱一郎 吉田享平

—B1—

堀越俊行 平井柊太 鈴木康章 島健太郎

平成30年8月7日

目次

1	活動概要	3
2	活動内容	3
2.1	勉強会	3
2.1.1	DTM 入門講座	3
2.1.2	エフェクト講座	4
2.1.3	シンセサイザーの紹介	4
2.1.4	シンセサイザーの使い方と実践	4
2.1.5	ミックスダウン講座	5
2.2	耳コピ楽曲制作	5
3	活動で得られたもの	5
4	問題点	6
5	展望	6

1 活動概要

文責：中西 清貴

DTM 班は、11 月 25 日に開催される学園祭に向けて自作した楽曲を発表することを目標とした。そのために、作曲に関する知識を深め、実際に楽曲を作成することで各個人の技術力向上に努めた。

2 活動内容

2.1 勉強会

2.1.1 DTM 入門講座

文責：稲垣 和真

DTM 初心者向けの入門講座をおこなった。この講座では、初心者を対象に DTM 環境の構築や音楽の基礎知識についての説明を行った。具体的に以下の4つの項目を以下に記す。

- DTM 環境の構築
- 楽器構成
- コード (和音)
- 曲の構成

音楽の基本的知識

ピアノ鍵盤の画像を用いながら、音階の読み方を説明した。

楽器構成

ポピュラー音楽によく用いられる楽器の構成の基本を説明した。具体的には、メロディ、コード、ベース、リズムの4種類があり、それぞれのパートを満たす楽器を入れることである。

コード (和音)

音楽において重要な役割を持つコードについて説明をした。具体的には、メジャーコードとマイナーコードの音の構成や、コード進行の例を示した。

曲の構成

一般的な曲の構成について実際に曲を聞きながら説明を行った。構成の内容の具体例は、イントロダクション、A メロ、B メロ、C メロ、エンディングについてである。

2.1.2 エフェクト講座

文責：小村 漱一郎

エフェクト講座では、DTM で頻繁に使われるエフェクトについての紹介を行った。具体的には、音色を作る際に使われるエフェクトや、全体の楽器の音量バランスを調節するミキシングという段階でよく使われるエフェクトについて説明をした。また、実際にエフェクトをかける前の音とかけた後の音を比較することで違いを明確に示した。具体的には、ディストーションやリバーブやイコライザーと呼ばれるエフェクトを用いた。

2.1.3 シンセサイザーの紹介

文責：青木 雅典

シンセサイザーとは、電子発振機で発生させた音をさまざまな音色に合成する装置 [明鏡国語辞典] のことである。初期のシンセサイザーは電子部品で構成されたハードウェアシンセサイザーであったが、近年ではコンピュータ上のソフトウェアとして動作するソフトウェアシンセサイザー（以下、ソフトシンセ）も活発に利用されている。昨今の楽曲制作において、ソフトシンセは非常に重要な存在であり、本班員においても周知されるべき事項である。シンセサイザー講座の冒頭では、主要なシンセサイザーの紹介と簡単な特徴を説明した。具体的には、Synth1 や Sylenth1, Massive、SERUM、NEXUS2 といったソフトシンセや、Komplete、Composer Cloud といった製品群を扱った。

2.1.4 シンセサイザーの使い方と実践

文責：青木 雅典

シンセサイザーの主要な機能について、より理解が深まると考えられるハンズオン形式で講座を行なった。当初、講座で扱うソフトシンセは、無料配布されている VST・AU 音源である「Synth1」を予定していた。しかし、当日導入したところ、macOS 上では表示が乱れ、正しく操作できないことが発覚した。そこで、今回の講座では、ブラウザ上で動作するソフトシンセ「Viktor NV-1」を利用した。

2.1.5 ミックスダウン講座

文責：青木 雅典

学園祭や M3 即売会にて CD 頒布を行う為には、制作した楽曲を CD プレスへ入稿しても問題ないレベルに正しく整えるための技術が求められる。今回のミックスダウン講座では、学園祭 CD の製作を焦点に、ミックスダウンと、そこに至るまでの作業概略を学んだ。

2.2 耳コピ楽曲制作

文責：平井 柊太

耳コピとは楽曲を聴き、それを元に DAW 上で曲を再現する一連の過程のことを言う。基本的に耳コピにおいて重要視されるのは、オリジナル性ではなく原曲の再現性である。そのため使われている音源やフェードイン、フェードアウトのタイミングなど細部まで楽曲を聴き込み、進めていく必要がある。

それ故、耳コピをすることは楽曲の分析を行うことに繋がり、音楽理論やコード進行の使用方法等を効率良く身につけることが出来る有効な手段である。今回の活動では、指定の曲 1 曲について班全員で耳コピを行い例会で発表し合い、各々の改善点を話し合うなどのことを行った。

3 活動で得られたもの

文責：堀越 俊行

今回の活動で得られた事は 3 つある。1 つ目はコード進行やスケールなどの音楽の基礎知識の獲得である。これは活動で行われた勉強会を通じて得られたものである。2 つ目はシンセサイザーの基礎知識と実践方法である。これは実演を踏まえながらシンセサイザーについて学ぶ事によって得られた物である。3 つ目は曲の構成の理解と制作方法である。これは耳コピや、オリジナル曲の制作をすることによって得られたものである。

4 問題点

文責：吉本 裕貴

勉強会について

上回生による、基本的な知識等についての勉強会が開催されたが、内容が参加者のレベルや求めるものに合っているものかが曖昧であった。事前にアンケートを取るなどして、何が求められているかを把握しておく必要があったと考えられる。

不測の事態への対応

今季は地震等、不測の事態の影響で、活動が中止になる日があった。結果、今季中の活動は一週間分遅れてしまった。対策として、予め予備日を用意しておくといったものがあげられる。

金銭面の問題

金銭的に余裕がない者に対して、負担をかけずに DTM を行うためのサポートが不十分であった。予め無料で活動が行える方法を調査し、紹介する必要があったと考えられる。

5 展望

文責：安田 弘樹

今回の活動で行われた耳コピ制作や勉強会を通して、班員の楽曲制作に関する技術力を向上させ、知識を深める事が出来た。後期に行われる学園祭においては班員が作成した楽曲を収録する CD を制作、頒布し、また、音を主軸に置いた制作物を取り扱う M3 即売会の参加募集へ応募し、参加が決まった場合には学園祭と同じく CD を頒布する事で研究の成果を外部へと還元する予定であるため、それら为目标としつつ、作曲活動の更なる進展や技術の向上を目指していきたい。